



富士市初のチャンピオン

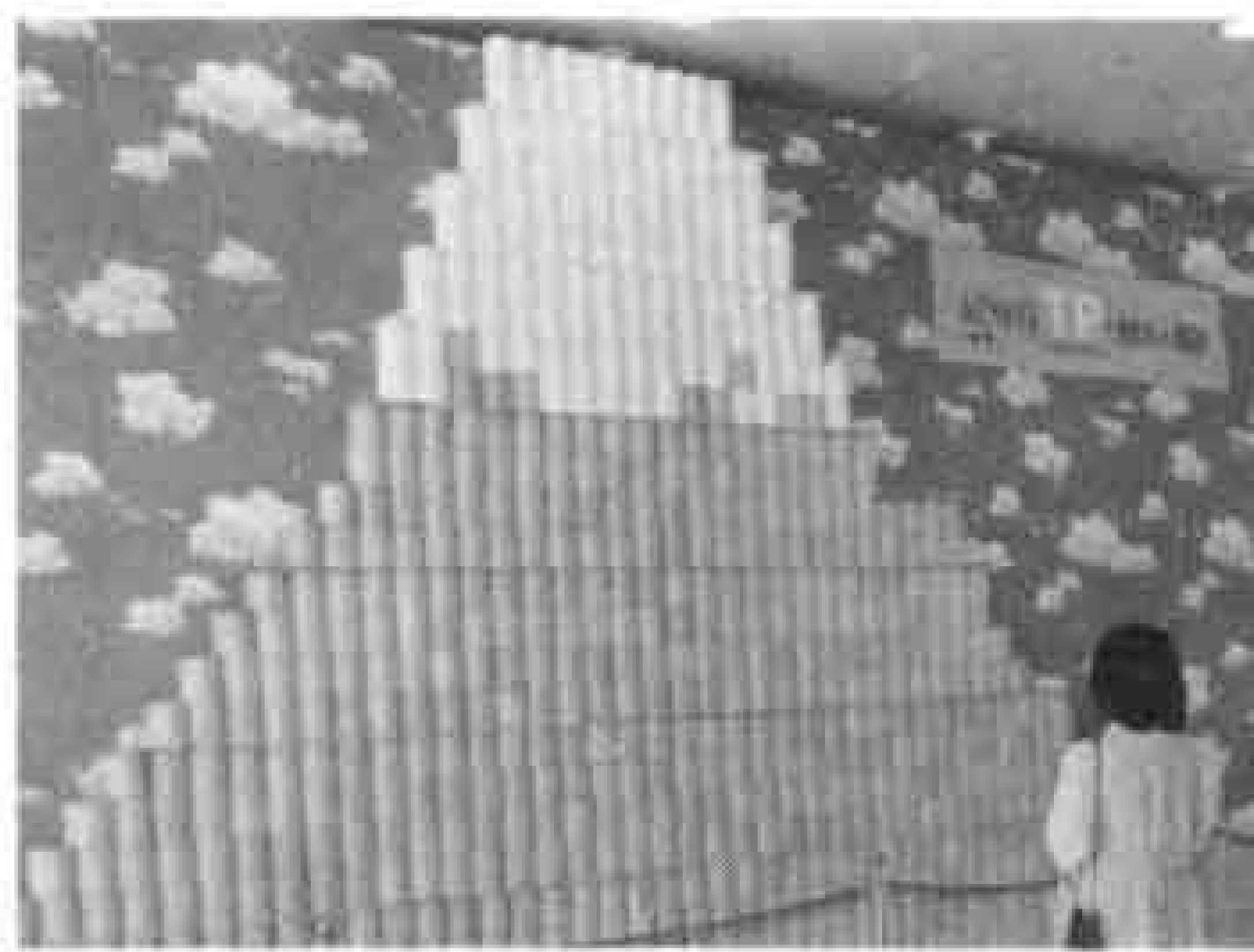


△渡辺市長(右)と握手する平野さん

ボクシングで富士市初の日本チャンピオンが誕生しました。

チャンピオンは市立吉原商業高校出身の平野公夫さん(23歳)。9月に行われた日本ジュニアフライ級のタイトルマッチで、挑戦者として試合に臨み見事4回KO勝ちしました。吉原商業高校時代は陸上部に属していたという平野さんですが、昭和60年に卒業後、東京のセラピー渡辺ジムの門をたたき、62年にプロデビューをしました。父親の耕一さんを初め家族は富士見台に住んでいます。

9月27日にはチャンピオンベルトを手にした渡辺市長を訪問し、「これからも頑張る」と激励を受けました。



△トイレトペーパーでつくられた富士山

十月四日から十日まで新富士駅で「みどりを守るトイレトペーパーと地球のいい関係展」が開かれました。これは県家庭紙工業組合が主催したもので、古紙回収によって地球の緑がいかに守られるかをパネルで訴えました。

現在日本で生産される年間約二千万トンの紙の半分は古紙が原料。あなたも一層の御協力を。

古紙回収で地球の緑を守ろう

生まれ変わった百年前の句額



△関係者の皆さんと句額

富士中の南側にある中島の天満宮には、明治二十六年に奉納された俳句の扁額があります。ところが、この扁額は長い年月風雨にさらされていたため傷みがひどく、このほど氏子の皆さんを中心として立派につくり直されました。

扁額には、梅やウグイスを題材にしたものなど、七十を超える作品が残されています。その昔、この近所に俳人の集まりがあり、俳諧活動が盛んだったことがしのべられます。

消えゆくわらべうたを楽譜にして残す



辻村さん(左)と鈴木さん

あなたはわらべうたを、幾つ歌えますか？

子どもたちのわらべうたも聞こえなくなった今、市は楽譜にして残そうと採譜作業を、富士市少年少女合唱団の代表者、辻村典枝さんに依頼。辻村さんはお年寄りを訪ね、歌声を録音しながら楽譜にする作業を行っています。

「郷土に残るわらべうたあそび」をまとめた、厚原の鈴木めぐりさん(八十二歳)からは、お月さんいくつやお正月など五曲を収録。近く冊子にまとめる予定です。



新郷土芸能で全国大会へ

神戸青年団の皆さん

地元に残る昔話「雨ごい曼陀羅」を新郷土芸能として演じる青年団ということで、昨年も紹介した神戸青年団。その後も練習を重ね、県青年祭で最優秀賞を受賞。今月中旬に行われる全国大会に出場します。

ダン、ダンダン……うちわ太鼓や木魚・鐘などを使い、厳かな謡曲で演じられる「雨ごい曼陀羅」。昨年十一月に「ふるさと芸能祭」で発表以来、幾つかの場を踏む中で、団員自身の表現力や理解が進み、地元を初め周囲の評価も高まってきています。

その上今回は、九月に行われた県青年祭の郷土芸能部門で最優秀賞を受賞。今月十日から東京の日本青年館で行われる全国大会へ出場することになりました。

「雨ごい曼陀羅」は一見すると若者には不釣り合いに見えるリズムやスタイルなのですが、一生懸命取り組む皆さんは堂に入っており、一種の迫力が伝わってきます。

団長の鈴木光則君(二十六歳)は「まさか全国大会へ行くとは思っていませんでしたので、戸惑いもありましたが、今はみんな盛り上がってきています。約三十人の団員も練

△一色公会堂を会場に熱心に練習

